

追加型投信 / 国内 / 株式

ファンド情報提供資料
(データ基準日: 2022年10月31日)

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

当ファンドの運用状況と投資環境・今後の見通し

※本レポートは、いちよしアセットマネジメントの資料を基に作成しております。

平素は「いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
本資料では、当ファンドを取り巻く投資環境と、今後の市場見通し等についてご報告いたします。
引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年初来の市場動向と当ファンドの運用状況

- 2022年2月下旬にロシアがウクライナに侵攻したことから、国内株式市場も大幅に下落しました。3月には、新型コロナウイルス感染再拡大によって、中国の上海市がロックダウン(都市封鎖措置)を導入したことから、製造業を中心にサプライチェーン(製品の原材料調達から販売に至るまでの一連の流れ)の混乱などが警戒されました。
- 米国では、米国消費者物価指数が大幅に上昇したことから、米連邦準備制度理事会(FRB)による大幅な連続利上げが行われ、景気後退懸念が高まりました。その後、9月から10月末にかけても、米国の雇用や物価の動向、FRBによる金融政策に対する先行き不透明感から、国内株式市場はボラティリティ(価格変動性)の高い状況が続きました。また、為替市場では米国の利上げを織り込む形で、2022年初の1米ドル115円台から、10月末には150円近くまで大幅に円安が進行しました。
- 当ファンドの基準価額は、国内株式市場で成長(グロース)株より割安(バリュー)株が選好されたことや、当ファンドが保有する小型成長株の株価が低迷したことなどから低位で推移しました。

設定来の当ファンドの基準価額等の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、1万円当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

相対的に日本株式優位の展開が継続

- 2022年初来の日米主要株価指数をみると、日本株式は米国株式に対して堅調に推移しました。引き締めを強化する米国の金融政策に対し、日本では緩和的な金融政策を継続していること等から、為替市場では円安が進行しました。
- 資源価格の上昇と円安による国内物価上昇への影響はありますが、国内株式市場では外需関連銘柄などへの円安メリットがある程度評価されているとみられます。また、国内では新型コロナウイルス拡大期からの景況感の回復が諸外国に比べ遅れていたこともあり、海外からの旅行者によるインバウンド需要などの国内消費の回復期待などを背景に国内株式市場は相対的に底堅く推移しました。
- 日本株式の予想PER(株価収益率)は米国株式と比較して、大きく低下しました。2022年10月末時点の日本株式の予想PERは12.2倍と、過去10年間でみても低水準にあり、過去10年平均の14.9倍を下回っていることから、バリュエーション(投資価値基準)の調整はある程度進んだとみています。

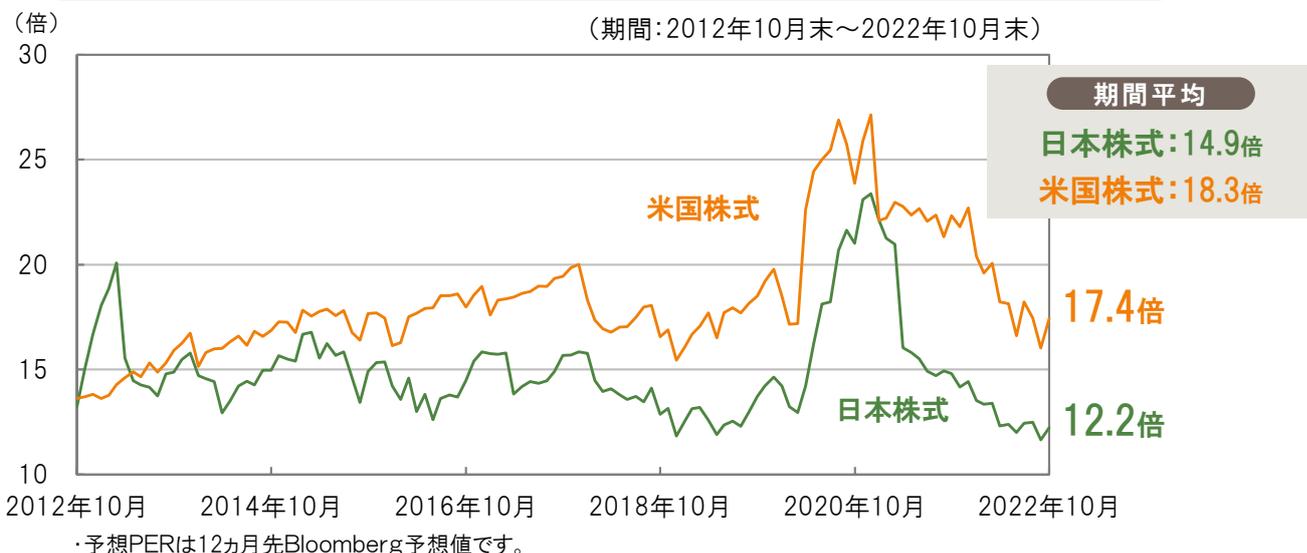
2022年初来の日米主要株価指数の推移(現地通貨ベース)

(期間: 2021年12月31日~2022年10月31日)



過去10年の日米主要株価指数の予想PER(株価収益率)の推移

(期間: 2012年10月末~2022年10月末)



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

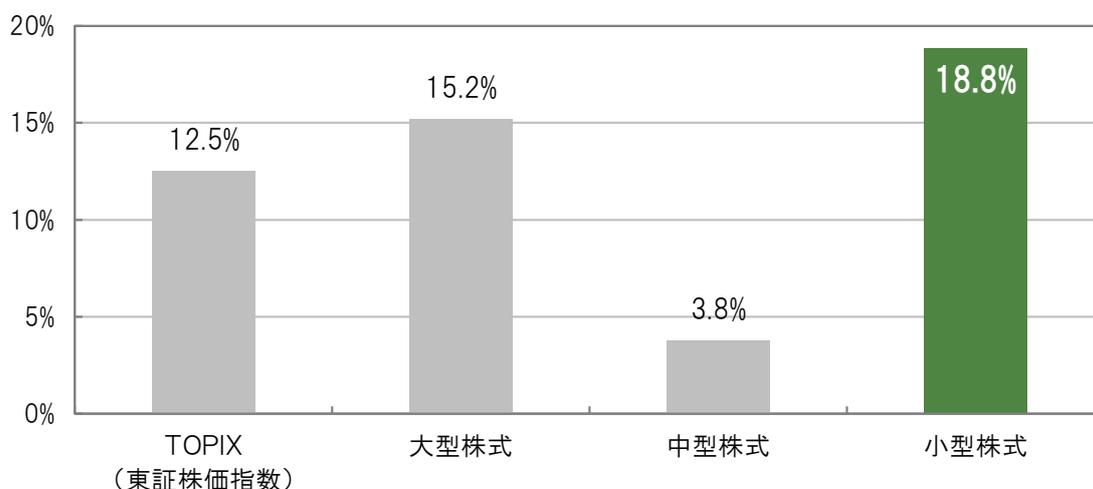
■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

小型株式の相対的に高い利益成長に期待

- 内需関連銘柄の多い小型株式は、外需関連銘柄の多い大型株式と比べて海外市況や地政学リスクによる影響が相対的に小さく、高い利益成長が見込まれており、今後の株価反転が期待されます。
- 増収増益になると予想されれば株価上昇につながると考えられるため、利益と株価は連動する傾向があります。足下の小型株式は、先行き利益の増加予想に対して割安な水準にあり、今後の株価上昇余地は大きいとみています。

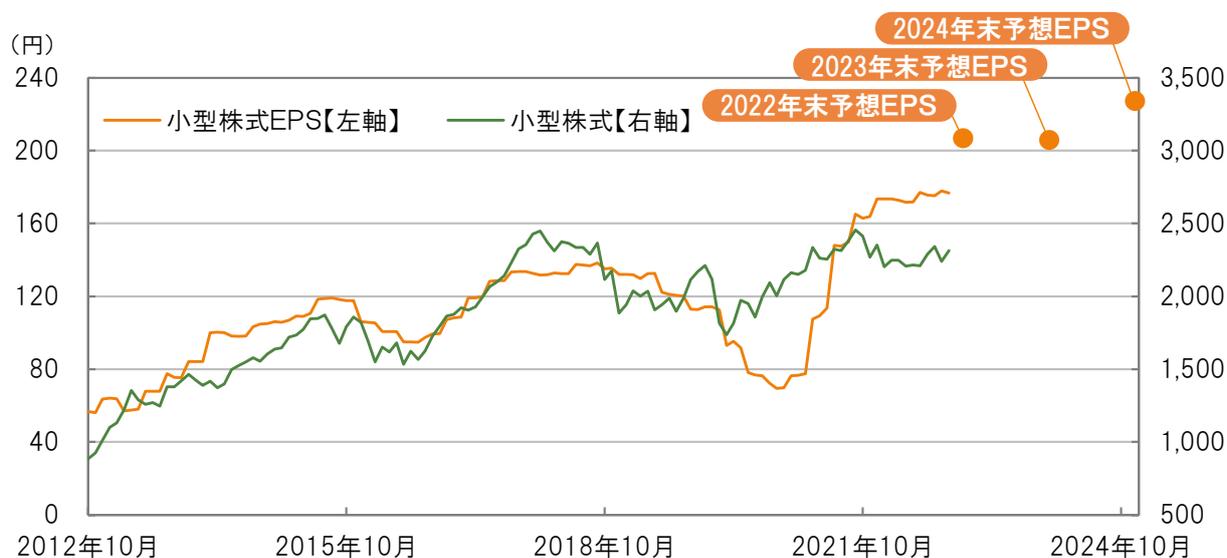
国内株式規模別の今期予想EPS(1株当たり利益)成長率



・上記は12月末を年度末とし、2021年度実績EPSと2022年度予想EPS(12ヵ月先Bloomberg予想値(2022年11月1日時点))に基づき算出しています。

小型株式の値動きとEPSの推移

(期間: 2012年10月末~2022年10月末、2022年末以降は予想値)



・予想EPSは、12ヵ月先Bloomberg予想値(2022年11月7日時点)です。

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

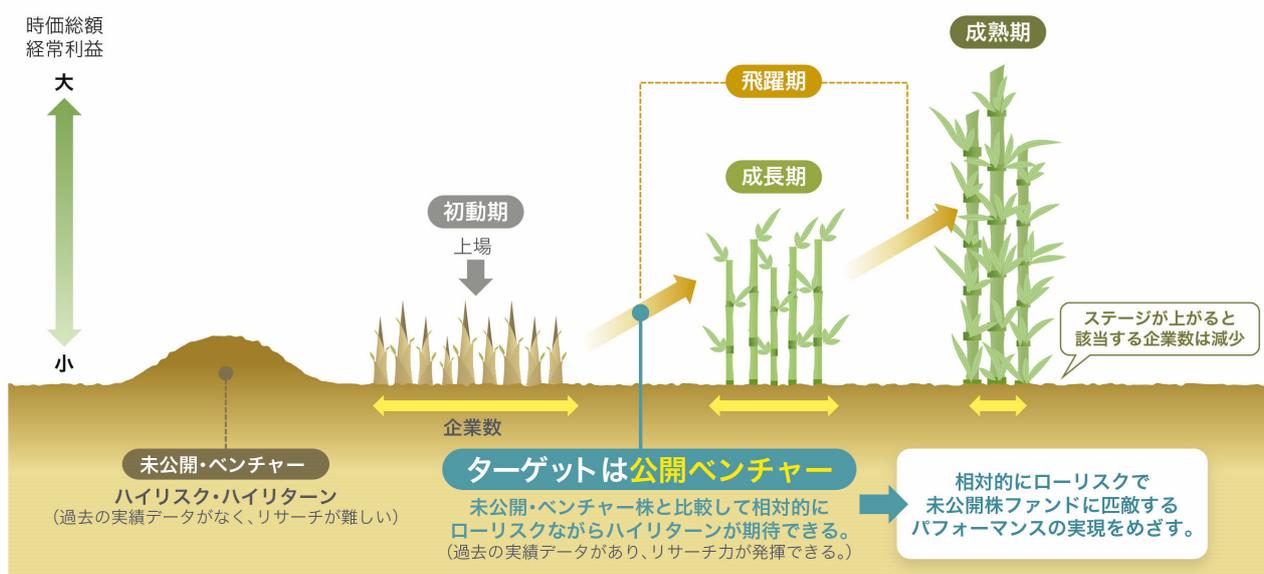
■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

中小型株式の銘柄選定力の重要性

- 一般的に新興企業は、得意分野への経営資源の集中や、市場ニーズへの素早い対応などによる業績拡大とともに、時価総額が増加する傾向にあります。当ファンドは、企業の成長性が高く、かつ株価水準が割安であると判断される「公開ベンチャー」銘柄を中心に投資を行います。
- 中小型株式は企業数が多いため、1社当たりのアナリスト数が少なくなっています。加えて、中小型株式は大型株式に比べ情報量が限られることから、個別銘柄に対する調査が重要であると考えます。

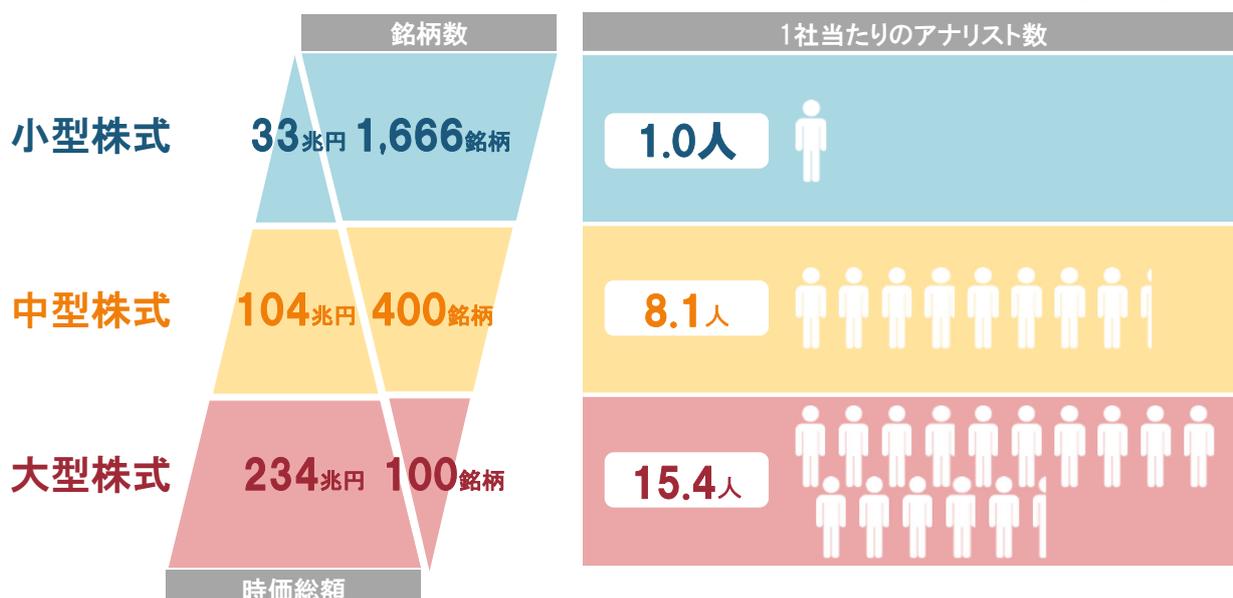
成長企業の発展パターン(イメージ)



- ・上記はイメージであり、すべての企業が上記の通り成長することを示したものではありません。
- ・市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

TOPIX構成銘柄の時価総額、銘柄数、1社当たりのアナリスト数

(2022年10月末時点)



(出所)日本取引所グループ(JPX)、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は、TOPIX(東証株価指数)の「規模1区分」に基づき算出しています。・時価総額は浮動株ベースです。・アナリスト数は、「レーティングを付与したアナリスト数」をBloombergが集計したものです。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

組入銘柄のご紹介

アイドマ・ホールディングス (7373)

業種: サービス業

日本全国で事業を展開する事業支援サービス会社です。営業支援、業務支援、経営支援等を提供し、事業拡大のサポートを幅広く行っています。

《銘柄選定のポイント》

新規顧客開拓営業を代行するサービス「Sales Platform」を主力事業としています。当サービスは、システムに内蔵された680万件以上のデータベースから自動的に新規開拓先を選定し、商談の設定までを速やかに行うサービスです。労働力人口の減少によって国内の中小企業は営業人員の不足という課題に直面しており、同社の事業は今後も高い成長が期待されます。

株価・売上高の推移



湖北工業 (6524)

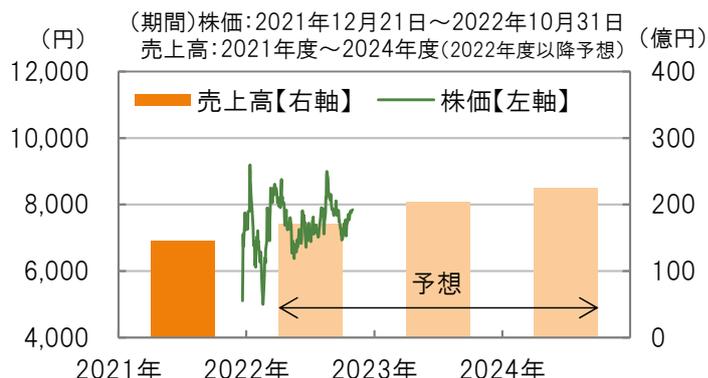
業種: 電気機器

世界的な電気部品メーカーで、光通信部品とアルミ電解コンデンサの先進企業です。

《銘柄選定のポイント》

光通信ケーブル用の光アイソレータをはじめとする光部品・デバイス(世界シェア約50%以上)やアルミ電解コンデンサ用リード端子(世界シェア約40%以上)等競争力の高い製品を持つ企業です。世界的な情報通信量の増加に伴って海底光通信ケーブルの大型投資が続くとみられ、海底光通信ケーブルの光増幅に欠かせない部品である光アイソレータは、今後も売上・利益の拡大が期待されます。

株価・売上高の推移



エクサウィザーズ (4259)

業種: 情報・通信業

独自のAI(人工知能)技術プラットフォームを用いて、社会課題解決のためのサービスを提供しています。

《銘柄選定のポイント》

同社のAI技術プラットフォーム「exaBase」には、企業へのコンサルティング実績による知見が数多く蓄積されています。それらの知見とAI技術の掛け合わせによって、幅広い業界の顧客企業における様々な課題に対し最適なAIシステムを構築・提供することができます。国内のAI企業の中でも優れた対応力であると評価しており、中長期的な利益成長が期待されます。

株価・売上高の推移



(出所) 企業HP、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は当ファンドのご理解を深めていただくために、2022年9月、10月に新規組み入れた銘柄の中から組入比率と業種等を考慮してご紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。・業種は、東証33業種で分類しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

今後の当ファンドの運用方針

- 2022年初来、物価高を背景としたFRBによる金融引き締めとそれに伴う景気後退への懸念から、国内株式市場は大幅に下落しました。また、FRBによる急速な金融引き締めは株式市場を不安定化させ、景況感の影響を受けにくい個別企業の成長性が市場で評価されにくい環境が続きました。
- しかし、FRBによる利上げの終着点が見え始め、同時に物価上昇の鈍化傾向が明らかになれば、国内株式市場の混乱は鎮静化し始めているとみています。市場の混乱が完全に落ち着くには今少し時間が必要ですが、混乱の収束とともに個別企業の成長性が再び評価されやすい環境となっていくと想定しています。その中でも国内中小型株式は、株価のバリュエーションがその企業の成長性に対して割安な状態にある銘柄が多く存在していると考えています。今後はそのような銘柄群に対する評価が徐々に改善していくと想定しています。
- 当ファンドでは、中小型株式を取り巻く環境の変化を見極めながら、個別企業へのボトムアップ・アプローチ*により優良な中小型成長銘柄を厳選し、その成長性に対して株価の割安度が高まっていると判断した銘柄を注視していきます。また、ファンダメンタルズ(企業の財務状況)以上に株価上昇がみられる銘柄および短期間で株価が大幅に上昇した銘柄については、利益確定の売却や組入比率の調整などを行い、比較的株価が割安水準にあって成長期待が大きいと判断した中小型成長銘柄への入替を継続することでパフォーマンスの向上に努めていく方針です。

*投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

いちよしグループのご紹介 ～中小型株式のリサーチ体制に強み～

(2022年5月末現在)



- ファンドマネージャーの平均運用経験年数 20年
- 設立以来、約36年にわたり一貫して中小型株式のアクティブ運用およびボトムアップ・アプローチに従事

- アナリストの平均調査経験年数22年
- 中小型株式市場で高いカバー率

中小型株式運用のパフォーマンス最大化をめざす

・組織変更等により、上記の名称・内容等は変更となる場合があります。

【本資料で使用している指数について】

日本株式: TOPIX(東証株価指数)、米国株式: S&P500株価指数、大型株式: TOPIX100、中型株式: TOPIX Mid400、小型株式: TOPIX Small
本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)を合わせてご確認ください。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見直し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

■ファンドの特色

特色1 わが国の中小型株式に投資します。

- ・わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株式の中から、企業の成長性が高く、かつ株価水準が割安であると判断される銘柄を中心に投資します。
- ・公開ベンチャーを中心とした投資を行います。
上場企業のうち、ファンダメンタルズが良好で高い成長力を有し、近い将来において飛躍期を迎える可能性が高いと判断され、次のステージでのビジネスモデル、ビジネスプランが明確であると判断される企業を「公開ベンチャー」と位置付け、これらの企業に投資します。
- ※ 実際の運用はいちよし 公開ベンチャー・マザーファンドを通じて行います。

特色2 中小型株に特化した、いちよしアセットマネジメント株式会社の運用アドバイスを受けます。

特色3 ボトムアップ・アプローチ*による銘柄選定を行い、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

- ・いちよしアセットマネジメントの担当ファンドマネージャー、いちよし経済研究所の中小型株専門アナリストによる徹底したリサーチ力を活用して、三菱UFJ国際投信が銘柄選定を行います。
- *【ボトムアップ・アプローチ】投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

特色4 年1回決算を行い、決算日(11月29日(休業日の場合は翌営業日))の前営業日の基準価額に応じた分配をめざします。

- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
- ・原則として、決算日の前営業日の基準価額に応じ、以下の金額の分配をめざします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、決算日にかけて基準価額が急激に変動し、以下に記載された分配金額が分配対象額を超える場合等には、当該分配金額としないことや分配を行わないことがあります。

決算日の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	経費控除後の配当等収益の範囲内
11,000円以上13,000円未満	500円
13,000円以上	1,000円

※ 基準価額が上記の一定の水準に一度でも到達すればその水準に応じた分配を続ける、というものではありません。

※ 分配により基準価額は下落します。そのため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。

また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

※ 基準価額の値上がりにより、分配金の支払い準備のために用意していた資金を超える分配金テーブルに該当することによって資金が不足する場合等は、テーブル通りの分配ができないことがあります。

※ 上記表に記載された基準価額および分配金額は、予想に基づくものであり、将来の運用の成果を保証または示唆するものではありません。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドの仕組み

・ファミリーファンド方式により運用を行います。

<当ファンドが主要投資対象とするマザーファンド>

いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

追加型投信／国内／株式

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

株価変動 リスク	株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。
信用 リスク	投資している有価証券等の発行会社の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、当ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、その場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。

ファンドは、中小型株式を主要投資対象としているため、大型株式中心に投資する場合に比べ、株価変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時まで販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	2027年11月29日まで(2017年11月17日設定)
繰上償還	ファンドの受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年11月29日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.30%(税抜 3.00%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.870%(税抜 年率1.700%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称: いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号	○			